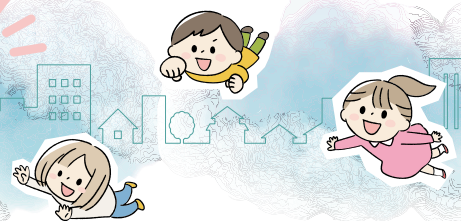




まちの話題



9月11日[Wed]

IFSCクライミングユース世界選手権で通谷 律選手が3連覇！



▲（左から）荒瀬弘之副市長、横尾市長、通谷選手、多久高校大島安博校長、多久高校登山部顧問 樋口義朗さん

8月22日(休)～31日(出)に中国・貴陽で開催された「IFSCクライミングユース世界選手権」で、ボルダー競技に出場した多久高校3年の通谷律選手（伊万里市出身）が優勝し、多久市長を表敬訪問されました。

大会3連覇を飾った通谷選手は「今年で最後ということもあり、優勝できてうれしかったし、気持ちよかったです。緊張もありましたが、おかげで集中力も上がり練習以上にベストを尽くせました」と大会を振り返りました。

横尾俊彦市長は「今回の世界選手権の予選から決勝まですべて完登されており感激しました。多久で開催される国スポでも通谷選手の素晴らしい活躍を心から期待しています」とエールを送りました。



9月20日[Fri]

セーフティーライン作戦多久を実施



▲のぼり旗やハンドポップを掲げて、交通安全を呼びかけました

秋の交通安全県民運動（9月21日～30日）の一環として、小城警察署、多久地区交通安全協会、多久市交通対策協議会のみなさんが交通安全のぼり旗やハンドポップを掲げ、ドライバーに対し安全運転を呼びかけました。

小城警察署の川副正弥署長は「小城警察署管内の交通事故は昨年の件数を上回るペースで発生しています。交通事故のない安全安心な多久市の実現に向けて、セーフティーライン活動をしっかり行い、交通安全対策を推進していきたい」と話されました。

この時期から日没が早くなります。ドライバーは早めのライト点灯を行い、歩行者は反射材用品などを活用することで、交通事故の防止に努めましょう。

10月13日[Sun]

若宮八幡宮で神輿・稚児行列



▲従者と稚児それぞれの衣装を身にまとい練り歩きました

さわやかな秋晴れの下、若宮八幡宮（多久町）で神輿・稚児行列が行われました。毎秋開催され、行事の担当地区は4年に1度交代します。今回は東ノ原・下鶴地区から、従者34人、稚児15人が神輿と一緒に周辺を練り歩きました。

奉賛会の藤井伸幸会長は「地域のみなさんの協力のおかげで今年も開催できました。神輿の担ぎ手は減ってきましたが、大切な行事なので軽量化するなど工夫しながら続けています」と話され、稚児行列を見守っていた保護者は「子どもにとっていい経験、思い出になると思います」と楽しそうに笑みを浮かべられていました。

行事の後は相撲場に移り、相撲大会もにぎやかに開催されました。

